

平成 20 年 10 月 17 日

碧南市長 棚田 政信



平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼いただきました件について、別添のとおり提出いたします。

(連絡先 碧南市建設部土木課管理係 電話 0566-41-3311 内線 401)

【碧南市の概況】

- ・ 碧南市は重要港湾「衣浦港」を擁し、臨海地区に鉄鋼業、自動車製造業など県内でも有数の工業拠点を有しているだけでなく、全国市場に通用する農水産物を生産しているなど、バランスの取れた産業構造を有している。また、「衣浦港」は昭和32年5月に重要港湾の指定を受けてから51年を経過し、これまで港湾施設の充実を図るとともに臨海部への工場立地も進展し、活力ある知多・西三河地域の経済発展に大変重要な役割を担ってきた。
- ・ しかしながら、この地域の経済発展に比べ、物流・生産拠点である衣浦港から高速道路インターチェンジや中部国際空港など高速交通ネットワークへのアクセスや後背圏域との連携を担う幹線道路の整備が追いついておらず、日常的に発生する交通渋滞による損失は甚大である。
- ・ また、本市は四方を水に囲まれ、現在の市域の約4割が、かつては水域であった土地であることから、水災害や地震時の液状化など、災害に対する危機感が強い。

【道路整備の必要性】

- ・ この地域が、引き続き元気で日本経済の発展に貢献するためには、幹線道路ネットワークの形成と強化を始め、交通死亡事故や想定される東海・東南海地震等大規模災害への対応など、市民の安全・安心の確保のためにも、依然として道路整備の必要性は高い。

【道路整備財源充実の必要性】

- ・ 前述したように、本市にとって道路整備の必要性は高いが、その整備には道路特定財源だけでは充足しておらず、一般財源を充当している状況にある。必要な道路整備や適正な維持管理を計画的に進めるためには、安定的な財源を確保することが不可欠であり、道路財源の一般財源化に当たっては、現在、地方に配分されている財源を「地方枠」として維持するとともに、地方の自由裁量が発揮できる仕組みを拡大されるよう強く要望する。

○ 現状	○ 課題
【住宅密集市街地】 本市は古くから港を中心に栄えてきており、木造住宅が密集し、道路も狭隘であるなど、旧市街地の社会基盤が脆弱である。 ・ 延焼の危険の高い区域（木防建ぺい率 30%以上） 180ha(県下2位) 【大規模災害の危険】 本市は四方を水に囲まれ、現在の市域の約4割が、かつては水域であった土地であることから、水災害や地震時の液状化など、災害に対する危機感が強い。 ・ 水害の恐れのある標高 2.5m 以下の面積 40.3% 【広域アクセス性】 本市は西三河地域の南西端にあり、高速道路 IC・中部国際空港等へのアクセス性が悪い。 ・ 市役所から高速道路 IC までの所要時間 約 40 分 【幹線道路での交通混雑】 本市の南北軸である衣浦豊田道路（国道 247 号、419 号）は、4～6 車線で計画されており、道路用地は確保されているものの、暫定車線で供用されている。この路線は衣浦港臨海工業地帯に沿っており、朝夕のみならず、慢性的に混雑している。 ・ 都市計画道路の整備率 82% ・ (都)衣浦豊田道路の混雑度 2.5 (H17 センサス) 【交通安全の確保】 ・ 交通事故発生件数(人身事故) 326 件 (H19) ・ 主要市道（1 級）の歩道整備状況 約 17.0km (74.7%) (H19)	・ 密集市街地での道路整備 ・ 橋梁の耐震補強 ・ 災害に強い道路整備 ・ 国道 247 号、名豊道路の 4 車線化、衣浦豊田道路の完成整備 ・ 名浜道路の整備 ・ 都市計画道路、国道、県道、市道の整備 ・ 衣浦豊田道路の暫定整備区間の早期多車線化 ・ 安全・安心な交通環境整備 (歩道整備、バリアフリー等)

＜第4次碧南市総合計画より＞（現在、次期総合計画策定作業中）

【まちづくりの基本理念と人口フレーム】

- ・ 第4次碧南市総合計画では、基本理念を「市民と行政のパートナーシップを図りながら進めていく。」と掲げ、「元気でいこう思いやりと文化のみなとまち碧南」をキャッチフレーズに、碧南の風土、歴史、文化、産業などを再認識するとともに、新しい時代に向けこれを生かし、人とまちの健康、福祉と環境を大切に、心豊かな人々を育み、安全で安心して暮らせる元気で活力あるみなとまち碧南をめざしている。
- ・ 現総合計画を策定した平成11年の本市の人口は、68,288人で、計画の目標年次である平成22年度(2010年度)には70,800人と想定していたが、順調な増加を続け、平成20年3月には74,092人となっている。次期総合計画では平成32年の目標人口として8万人程度に設定する見込みである。

【まちづくりの方向(抜粋)】

基本理念の実現のためのまちづくりに関する施策の方向は以下の通り。

- ・ 生活道路は、安全で高齢者などに配慮し、幹線道路は、安全で快適な道路空間として整備を進める。
- ・ 市街地整備では、市民の主体的な取組みを基本として、地域固有の環境を生かした整備を進める。既成市街地では、住民がそのまちに住み続けることができるように住環境整備を進める。また、鉄道駅と結びつけたまちづくりを推進する。
- ・ 公共輸送では、名鉄三河線の利用を促進するとともに、中部国際空港開港に関連した名鉄三河線との公共輸送のネットワーク化を図る。また、市内循環バスの利便性向上と利用促進を図る。
- ・ 衣浦港と臨海部整備では、港湾整備や港湾機能の強化とともにアクセス整備等を促進する。また、衣浦ポートアイランドは高度化された物流機能・環境型新産業を誘導するとともに、交流拠点機能をも考慮した利用を促進する。
- ・ 広域交通では、本市が国土中枢軸上の交通機能と有機的に結ばれるようにアクセスプランを作り、名浜道路の早期整備を始めアクセス網の整備促進を図る。
- ・ まちの特性に合った景観整備を図るため、自然景観の保全や象徴となる建築物の保存と標識などの機能的な整備によりわかりやすいまちづくりに努める。
- ・ 歩行者・生活者の安全にも配慮した交通体系の整備を進めるとともに、交通安全意識の高揚を図る。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

愛知県 碧南市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 国際競争力強化のための交通サービスの向上 ・ 地域活力の向上 ・ 都市交通の快適性、利便性の向上 ・ 大規模な地震、火災に強い国土づくり等 ・ 地球温暖化の防止 ・ 地域活力の向上 ・ 都市交通の快適性、利便性の向上 ・ 総合的な交通安全対策 ・ 少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成 ・ 良好な生活空間の形成	・ 衣浦豊田道路の強化 （国道 419 号高浜立体事業、 国道 247 号多車線化事業） ・ 国道 247 号碧南～西尾拡幅事業 ・ 名浜道路の整備 ・ 県道名古屋碧南線交通安全事業	・ 本市の南北軸である衣浦豊田道路（国道 247 号、419 号）、東西軸である国道 247 号の強化により、渋滞の緩和が図られ、衣浦港・臨海工業地帯から高速 IC や内陸工業地帯とのアクセス時間が短縮されることで、衣浦港及び臨海工業地帯の利便性が向上する。これにより、当地域の国際競争力の強化が図られ、地域活力の向上、快適性・利便性の向上、大規模災害時の緊急輸送路の確保、温室効果ガスの低減など、この地域の経済発展にとって極めて大きな効果が期待できる。 ・ さらに、三河沿岸部を東西に結び、三河港・衣浦港から中部国際空港へ直結する地域高規格道路名浜道路の整備により、三河南部から国際空港へのアクセス時間の短縮、広域的な都市連携の強化が図られる。 ・ 県道名古屋碧南線の歩道整備により安全な歩行環境が確保でき、高齢者が安心して暮らせる生活空間の提供ができる。さらに、道路拡幅による商店の建替えが促進され、地域の賑わいも期待できる。	